

東海高校・桐朋学園・麻布学園・浦和高校・東農大三高・・・インターハイでおなじみの高校に今年伊東高校が加わった。

第17回日本高等学校
オリエンテリング選手権大会
2004年3月20日(土)-21日(日)
栃木県矢板市

地理研究？

こんにちは。伊東高校地理研の顧問島崎です。そもそも、この原稿を読んでいらっしゃる方のほとんど全ての方が、なんで伊東高校地理研が、インターハイに参加したのか、ということについて御存じないと思うので、そのいきさつについて紹介したいと思います。

まず、伊東高校という高校ですが、伊豆半島の東岸、あの八ヶ岳でおなじみの伊東市にあります。僕が赴任したのが3年前。何か部活動を担当できますか？との当時の教頭先生の問い掛けに、「郷土研究とかなら...」と答えてみたところ、「地理研究部」の顧問に任命されたのがそもそもの始まりでした。「地理研究部」は、本来郷土研究のようなことをしていたらしいのですが、近年そんな活動もはやらず、いわゆる「ユレイ文化部」的な部活動でした。なんだかやる気のない生徒と映画を見たり、土器を作ったりという活動をしていたのですが、去年の4月に入学した1年生に、「僕はこんなことをやっているんだけど、君たちもやってみ

ないかい？」と半ば強引にオリエンテリングを薦めてみました。何故か「おもしろそう」と興味を持った生徒を連れていったのが、2003年6月1日の東大会でした。0Bぐらいなら帰って来れるかなと思っていたのが大間違い。確か...3時間かけても帰ってきませんでした。天候もあまりよろしくなく、ドロドロになって帰ってきた生徒を見て、正直言って「終わったな」と思ったものです。

ところが、世の中には変わり者もいたもので、もう二度とやらない、という生徒だけでなく、またやってみようという生徒もいたのです。

その筆頭が、北島悠という生徒です。合宿や大会にちまちま参加していく中で、10月12日の東日本大会ではなんとびっくりM18Aで6位になってしまいました。タイム的にはそんなに良いわけではないですが、ミスはそんなにしないタイプです。さらに、翌年1月18日のジュニアチャンピオン大会でも9位。他にも大会や合宿に参加する生徒もおり、これはいけるかもしれないということで、インターハイに出陣することとなりました。

まずは挑戦！ インターハイ

インターハイは栃木県で行われるということで、伊東からはかなり距離、つまり交通費がかかりますが、とにかく参加することに意義があると思い、とにかく乗り込むこととなりました。

当日までにはいくつか支障がありましたが、中でも最大のものが、北島に継ぐ2番手の選手が成績不良となって

しまい、参加できなくなってしまったことです。今さらですが、彼がいれば、多少結果はプラスだったのでは、と残念に思っています。こういう時に参加するかしないかが、高校生と大学生の差かな、と思ってみたい。

3月20日(土)の団体戦は雪のように冷たい雨が降る、非常にコンディションの悪い天候でした。1走の北島はぼちぼちと帰ってきましたが、2走の藤原はなかなか帰ってきませんでした。さらに天候が悪化してきたため、ウムスタート対象チームは出走禁止となってしまうましたが、やっぱり帰ってきません。しばらくして帰ってきたときには、本当にボロボロな状態で体調も心配な程でした。

3月21日(日)の個人戦は、個人戦選手権に北島が出走。中間コントロールの通過タイムがなかなか表示されず、会場で気を揉みっぱなしでした。中間コントロールで名前が表示された時にはほっとしたものです。

インターハイでは、団体戦未完走、個人戦で北島が完走者中最下位の25位というぱっとしない結果でしたが、それでもインターハイに参加したことが一番良かったことです。参加した生徒もいい経験になったでしょう。来年はどこでやるのかわかりませんが、できればまた参加して、「団体戦完走」を目指したいと思っています。出られそうな大会にはまた連れていきたいです。今後の伊東高校地理研に注目してあげてください。

追伸：伊東高校地理研 北島悠 は、全日本大会 M18A で1位になりました。

インターハイ男子個人戦結果

1 山倉貴之	0:55:00	東海高校
2 斎藤翔太	0:59:02	桐朋学園
3 山澤 翔	0:59:56	桐朋学園
4 石松純	1:02:56	麻布学園
5 高野圭司	1:03:10	桐朋学園
6 古谷嵩	1:04:55	桐朋学園

インターハイ女子個人戦結果

1 渡邉久美	1:13:51	実践学園
--------	---------	------

(島崎和彦)



インターハイ
氷雨が降る中
リレーする
伊東高校